

令和 6 年度病床機能再編支援事業の事業計画について

資料 2 - 2

1 仙南区域

(1) 事業計画の内容

医療機関名	診療科	病床稼働率※1	病床削減前の稼働病床数(A)※2		事業対象となる削減病床数 (B)		病床削減後の許可病床数(A)+(B)		病床削減に係る方針・考え方
金上病院	内科 外科 整形外科 皮膚科 リハビリテーション科	82.9%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	当院は内科、外科、整形外科、皮膚科、リハビリテーション科を有し、外来、入院、在宅医療を提供している。近隣クリニックからの入院の受入れや、みやぎ県南中核病院とは密な連携を行い、高次医療の必要な患者の紹介、後方支援病院としての患者の受入れを行っている。 政府の方針として在宅医療が進められ、近年、当該医療圏においても在宅医療が増加してきている。地域包括ケア病棟は多機能的な使い方ができ、従来の外来からの入院や転院だけでなく在宅医療を提供している患者の急変やレスパイト入院にも柔軟に対応可能である。 将来を見据えた医療需要や医療提供体制の維持を踏まえ、令和6年2月1日に病棟再編を実施し医療療養病棟を39床から26床に削減し、地域包括ケア病棟52床から60床に増床した。このことにより、患者のニーズに答えることができ、より一層地域医療に貢献できると考える。
			急性期	0	急性期	0	急性期	0	
			慢性期	39	慢性期	▲13	慢性期	26	
			対象3区分計	39	対象3区分計	▲13	対象3区分計	26	
			(以下参考)						
			回復期	52	回復期	8	回復期	60	
			合計	91	合計	▲5	合計	86	

※1、※2 「病床稼働率」及び「稼働病床数」については、交付額の算定となる平成30年度病床機能報告の数値を記載している。

(2) 上記事業に対する宮城県地域医療構想調整会議（仙南区域）における委員からの意見（令和6年11月5日開催）

なし

2 仙台区域

(1) 事業計画の内容

医療機関名	診療科	病床稼働率※1	病床削減前の稼働病床数(A)※2		事業対象となる削減病床数 (B)		病床削減後の許可病床数(A)+(B)		病床削減に係る方針・考え方
泌尿器科 泉中央病院	泌尿器科	35.0%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	当院は1983年に開院した、透析医療を含む泌尿器科診療に特化した急性期病床38床の小規模病院です。その特殊性から仙台市内はもとより、県南、県北から通院する患者も多い状況です。近年の基幹病院の新患受診において予約受診が必須となっている状況から、新患患者の増加が著しく、仙台医療圏における泌尿器科診療の一翼を担っています。 当院の病床使用率は直近5年で15%程度低下し、約35%となっています。入退院患者数は大きく変化していないことから、急性尿路感染症、手術症例を含め入院期間を短縮していること、外来手術の導入などにより病床使用率が低下していると考えられます。入院日数を延長させることは考えにくいことから、今後も平均実働病床数の増加は見込めないと考えています。 上記の理由により今回急性期病床の削減を行う事といたしました。38床の病床のうち4床を削減して他用途に変更を予定しています。令和6年7月16日に仙台市保健所から38床から34床への減床の許可を取得しました。 今回の減床により当院の急性期病床は38床から34床となりますが、現状の病床使用率から入院患者の受け入れ環境についてはほとんど影響がないと見込んでいます。また、当院の患者動向、当院の役割についても変化はないと見込んでいます。地域医療構想との関係では、仙台区域では急性期病床が過剰な状況にあることから、本事業は地域医療構想の推進に資するものであると考えています。
			急性期	38	急性期	▲4	急性期	34	
			慢性期	0	慢性期	0	慢性期	0	
			対象3区分計	38	対象3区分計	▲4	対象3区分計	34	
			(以下参考)						
			回復期	0	回復期	0	回復期	0	
			合計	38	合計	▲4	合計	34	
村口きよ女性 クリニック	産婦人科	1.7%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	当院では、流産手術・中絶手術・婦人科小手術などの患者用に病床を確保しておりました。しかし十数年来、妊娠・出産・流産・中絶全てにおいて大幅に減少の一途を辿っており、特に新型コロナウイルス感染症蔓延以降、さらに拍車がかかっています。そうした経過の中で病床の稼働率も減少しており、当院の病床数を減らして地域で必要な他の施設で有効に使っていただきたいと思います。今年4月以降既に2床から1床に削減しており、今回の病床機能再編支援事業に該当するかどうか、地域医療調整会議及び医療審議会の御判断をお願いいたします。
			急性期	2	急性期	▲1	急性期	1	
			慢性期	0	慢性期	0	慢性期	0	
			対象3区分計	2	対象3区分計	▲1	対象3区分計	1	
			(以下参考)						
			回復期	0	回復期	0	回復期	0	
			合計	2	合計	▲1	合計	1	

※1、※2 「病床稼働率」及び「稼働病床数」については、交付額の算定となる平成30年度病床機能報告又は令和2年4月1日時点の数値を記載している。

(2) 上記事業に対する宮城県地域医療構想調整会議（仙台区域）における委員からの意見（令和6年11月1日開催）

なし

3 大崎・栗原区域

(1) 事業計画の内容

医療機関名	診療科	病床稼働率※ 1	病床削減前の稼働病床数(A)※ 2		過去に本事業で支給済の病床数(B)		事業対象となる削減病床数 (C)		病床削減後の許可病床数(A)+(B)+(C)		病床削減に係る方針・考え方
栗原市立若柳病院	内科 外科 整形外科	69.8%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	大崎・栗原医療圏の人口構造の変化を見通し、また、栗原市の人口の減少をふまえ、令和 2 年度の栗原市病院事業経営健全化計画の中で、地域包括ケア病床の導入や機能分化について検討することがあり、令和 3 年 4 月 1 日から、許可病床数 120 床（急性期 90 床 慢性期 30 床）のうち急性期病棟 90 床から 60 床（急性期入院料算定 25 床・地域包括ケア算定病床 35 床）に削減し、尚且つ、令和 5 年 4 月 1 日から 60 床（急性期入院料算定 25 床・地域包括ケア算定病床 35 床）を地域包括ケア算定病床 45 床にした。 そして、機能分化で、急性期は、栗原市立栗原中央病院。地域包括ケア病棟・慢性期及び在宅診療は栗原市立若柳病院。慢性期は栗原市立栗駒病院と役割を明確にした。
			急性期	82	急性期	▲22	急性期	▲15	急性期	45	
			慢性期	29	慢性期	1	慢性期	0	慢性期	30	
			対象 3 区分計	111	対象 3 区分計	▲21	対象 3 区分計	▲15	対象 3 区分計	75	
			(以下参考)								
			回復期	0	回復期	0	回復期	0	回復期	0	
			合計	111	合計	▲21	合計	▲15	合計	75	
あさの眼科医院	眼科	7.7%	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	高度急性期	0	現在当院では主に白内障手術を入院病床を使って行っているが、昨年将来外来手術にする方向で 2 床減床した。今回、残りの病床も減らして無床診療所にし、すべて外来手術で行う予定。
			急性期	6	急性期	▲2	急性期	▲4	急性期	0	
			慢性期	0	慢性期	0	慢性期	0	慢性期	0	
			対象 3 区分計	6	対象 3 区分計	▲2	対象 3 区分計	▲4	対象 3 区分計	0	
			(以下参考)								
			回復期	0	回復期	0	回復期	0	回復期	0	
			合計	6	合計	▲2	合計	▲4	合計	0	

※1、※2 「病床稼働率」及び「稼働病床数」については、交付額の算定となる平成30年度病床機能報告の数値を記載している。

(2) 上記事業に対する宮城県地域医療構想調整会議（大崎・栗原区域）における委員からの意見（令和6年12月17日開催）

なし